

主要産地における令和5年度水稲の生育状況等について 第15報 (令和5年8月24日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和5年8月24日)

道府県	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平均、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (8月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政部 8月21日付)</p> <p>(空知) 生育は早く進んでいる。(空知総合振興局 8月21日付)</p> <p>(石狩) 生育は平年より早い。(石狩振興局 8月21日付)</p> <p>(後志) 遅速は早5日。(後志総合振興局 8月21日付)</p> <p>(胆振) 出穂期は昨年並に経過したため、冬熟は順に進み、生育は平年より早い。(胆振総合振興局 8月21日付)</p> <p>(日高) 気温が高く推移し、生育は平年より早く進んでいる。(日高振興局 8月21日付)</p> <p>(釧路) 生育は平年より早く進んでいる。(釧路総合振興局 8月21日付)</p> <p>(帯広) 生育は平年より早く進んでいる。(帯広総合振興局 8月21日付)</p> <p>(十勝) 生育は平年より早く進んでいる。(十勝総合振興局 8月21日付)</p> <p>(上川) 高温により、生育はやや早い。(上川総合振興局 8月21日付)</p> <p>(網走) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(網走振興局 8月21日付)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年より早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 8月21日付)</p>	<p>(全国) 春からエルニーニョ現象が続いているとみられる。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い(90%)。(気象庁 8月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>北海道地方は8月27日頃からかなりの高温。(札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>今年5年度の品種構成の概観</p> <p>「なつげし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 令和5年3月15日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
		<p>・本年は、出穂期が平年に比べて6日程度早く、その後県内全域において高温で経過したことから、刈取期は平年より大幅に早まる見込み。</p> <p>・主な地域における出穂最盛期からの積算気温(960℃)で算出した刈取期開始は、9月6日～9日頃となり、平年より10日程度早まると予測される。また、今後もかなりの高温が続く予想となっており、さらに早まる可能性がある。</p> <p>・出穂が特に早い地域や、穂数が少ない場合は、さらに早まると予想されるほか、刈り遅れによる白米熟粒や胴割粒等の品質低下が懸念される。</p> <p>(青森県 8月17日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>「まっしろ」及び「つがるロゼ」を中心とする品種構成となっている。</p>
岩手	(生育)	<p>【登熟状況】</p> <p>・出穂15日後における各品種の粗玄米千粒重は、「ひとめぼれ」が10.4g(平年比137%)、「あきたこまち」が9.5g(平年比108%)、「鏡河のしずく」が11.4g(平年比131%)および「いわてっこ」が9.7g(平年比158%)で、いずれも平年を大きく上回っている。</p> <p>(岩手県農業研究センター 8月23日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
		<p>【出穂状況】(8月9日現在)</p> <p>・水稲作付見込面積の99.2%の水田が出穂期に達している。県全体の収穫期は、8月5日で平年より5日早い。(宮城県 8月10日付)</p> <p>(栗原)</p> <p>・本年の栗原管内の出穂期(50%が出穂した日)は7月30日で、平年より3日早くなった。 ・7月30日に収穫期を迎えた北部平畑・西部丘陵地帯における中生品種(「ひとめぼれ」等)の刈取期は9月5日頃から9月12日頃となる見込み。(宮城県農業改良普及センター 8月22日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(仙北) 積算気温からみると、収穫期は5日程度早まる見込み。(8月18日付)</p> <p>(秋田県農政課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
		<p>・出穂期は平年より2日程度早まり、出穂後は異常高温で推移していることから、刈取期は平年に比べてかなり早まると予想される。(山形県農業技術課 8月22日付)</p> <p>・(農上) 出穂期は平年より2日程度早まり、出穂後も異常高温で推移している。(山形県農上総合支庁農業技術普及課 8月23日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「えはぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験における生育概況)</p> <p>・農業総合センターの生育調査における「ひとめぼれ」の出穂期は、本部(郡山市)が7月31日で平年より3日早く、会津地域研究所(会津坂下町)が7月29日で平年並、浜地域研究所(相馬市)が7月29日で平年より2日早く進んでいる。(福島県農林水産部農業振興課 8月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月27日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天の志」が増加しており、朝来への転換が増加していることから比率はやや低下したものの、まだ増加が見込まれる。</p>
		<p>【8月2日現在、水戸市】</p> <p>・出穂期は、「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月23日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月3日付)</p> <p>【8月7日現在、龍ヶ崎町】</p> <p>・出穂期は「あきたこまち」で平年より1日早い7月11日、「ふくまるS」で平年より3日早い7月13日、「コシヒカリ」で6日早い7月18日だった。 ・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で4日早い8月19日、「コシヒカリ」で7日早い8月29日である。(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成とされており、近年、収量水準の低い「天の志」が増加しており、朝来への転換が増加していることから比率はやや低下したものの、まだ増加が見込まれる。</p>
茨城	(生育)	<p>【生育概況】(出穂調査)</p> <p>・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日で前年より4日早い(前年差0～6日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。</p> <p>・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日で前年より3日早い(前年差1～7日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向</p> <p>・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ葉丈は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度進んでいる。(栃木県農政経営技術課 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
		<p>【生育概況】(出穂調査)</p> <p>・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日で前年より4日早い(前年差0～6日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。</p> <p>・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日で前年より3日早い(前年差1～7日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向</p> <p>・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ葉丈は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度進んでいる。(栃木県農政経営技術課 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
栃木	(生育)	<p>【生育概況】(出穂調査)</p> <p>・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日で前年より4日早い(前年差0～6日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。</p> <p>・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日で前年より3日早い(前年差1～7日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向</p> <p>・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ葉丈は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度進んでいる。(栃木県農政経営技術課 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
		<p>【生育概況】(出穂調査)</p> <p>・「早稲コシヒカリ」 ・出穂期は7月23日で前年より4日早い(前年差0～6日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.1葉。葉色は全体的に淡い傾向。</p> <p>・「早稲とちぎの星」 ・出穂期は7月29日で前年より3日早い(前年差1～7日)。最終葉齢(止葉)は前年と同じ13.0葉。葉色は全体的に淡い傾向</p> <p>・「普通稲とちぎの星」(8月3日調査) ・前年に比べ葉丈は短く、茎数は多い、葉色は淡い。前年に比べて3～5日程度進んでいる。(栃木県農政経営技術課 8月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>

<p>干 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>・7月は平年より気温が高く、日照時間が長い状況で推移した。このため、幼穂形成から出穂期までの日数が短く、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より1日早く、「コシヒカリ」「駒すけ」は4日早く出穂期を迎えている。なお、「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなっている。いずれの品種も、出穂期の葉色は平年並かやや濃くなっている。</p> <p>・成熟期は4月20日播きの「ふさおとめ」が8月9日から、「ふさこがね」は8月14日から、「コシヒカリ」「駒すけ」は8月20日からと予測される。なお、通常よりも葉色が低下したり水が不足した場合は成熟期が早まる可能性もある。</p> <p>(千葉県 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁 関東甲信地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月斑点米カメシノの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」を減少し、収量水準の高い「ゆきんずけ」「つぎあかり」と「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、従って品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p> <p>・主要品種の出穂期(農平均)は、「こしいぶき」で平年に比べ2日早い7月24日、「コシヒカリ」で1日早い8月3日、「新之助」で2日早い8月9日。</p> <p>・出穂期以降、異常高温・多雨が続いていることから、収穫適期がかなり早まる。</p> <p>・全ての品種で登熟初期に異常高温に遭遇しており、倒伏病の発生リスクが高い状態。</p> <p>(新潟県 8月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきんずけ」「つぎあかり」と「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、従って品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>富 山</p> <p>(生育)</p> <p>・「コシヒカリ」等の中生品種については、梅雨明け以降の高温の影響などから、近年より5日程度早く成熟期を迎えたと見込まれる。</p> <p>・7月31日に播種した「コシヒカリ」の刈取開始の目安は9月2日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県米作改良対策本部 8月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成とされているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんたかく」と「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、従って品種「新之助」(晩生種)が増加傾向にある。</p>
<p>石 川</p> <p>(生育)</p> <p>【8月10日現在】</p> <p>・早生は登熟中～後期、中生は登熟中期、晩生は出穂期～播種期となっている。</p> <p>(石川県農林総合研究センター 8月10日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたまちし」を中心とする品種構成であるが、近年、親オリジナル品種の「ひくまん丸」が増加傾向にある。</p>
<p>福 井</p> <p>(生育)</p> <p>・「コシヒカリ」も「ハナエゼン」と同様に平年より出穂が早く、高温が続いていることに加え、稲水分の低下が早いため、成熟期が平年より早まる見込み。</p> <p>・異常高温で乳白・未熟粒、前期粒の多発が懸念される。</p> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月22日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、ツマグロヨコバイの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「あきたまちし」が増加傾向にある。</p>
<p>長 野</p> <p>(生育)</p> <p>・6月下旬以降の暑しい高温の影響で、生育はかなり速んでいる。8月20日現在、現地の平地の早生品種(あきたまちし、美山錦 等)は登熟終期。4月末～5月上旬頃の「コシヒカリ」は登熟中期～登熟終期、5月中旬頃の「コシヒカリ」は中期、5月下旬頃の「コシヒカリ」は登熟初期～中期を迎えている。</p> <p>・出穂が早まった事に加え、登熟期間が高温なため、成熟期も平年よりかなり早まっており、生育は平年より10～7日程度速んでいると思われる。</p> <p>・出穂がかなり早まっており、平地地・4月末～5月初旬頃の「コシヒカリ」の刈り取り開始時期は、9月初旬からが予想されている。また早生品種の刈り取り開始時期は8月下旬からが予想されている。</p> <p>(松本県農業技術センター技術普及課 8月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁 関東甲信地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたまちし」を中心とする品種構成に大きな変化はない。親のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</p>
<p>滋 賀</p> <p>(生育)</p> <p>・7月4日頃以降、気温は平年並～高く、日照時間は概ね平年並～多く推移しており、作況調査の「みずかがみ」「コシヒカリ」の登熟は順調に進んでいる。</p> <p>・「みずかがみ」「コシヒカリ」の成熟期は、平年よりやや早い見込み。</p> <p>・県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、成熟期を迎えており、中生品種の成熟期は平年より早まるとみられる。</p> <p>(滋賀県農業技術振興センター 8月22日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側では平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿に耐えた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>兵 庫</p> <p>(生育)</p> <p>【7月31日時点】</p> <p>(南播磨) ・播種生品種の「キヌヒカリ」、「どんこい」では、草丈が平年並～やや長く、茎数はやや少ない。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて長く、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」で少ない。</p> <p>(備前部) ・草丈は平年並、茎数は平年並～極めて多い。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。</p> <p>(兵庫県 8月4日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側では平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月27日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山崎錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推奨している。</p>
<p>岡 山</p> <p>(生育)</p> <p>・早生品種は、既に一部で成熟期を迎えている。中生品種の「きぬむすめ」は、既に出穂が始まっており、「ヒノヒカリ」はこれから出穂期を迎える。</p> <p>(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術連絡会議 8月22日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月28日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月コブノメイガ、斑点米カメシノ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」「あきたまちし」及び「ヒノヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
<p>広 島</p> <p>(生育)</p> <p>【8月10日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター一園場(東広島市八本松町)</p> <p>( )内は平年値</p> <p>・「コシヒカリ」(密植) 草丈: 105.6cm、茎数: 420本/m<sup>2</sup>、葉色 (SPAD値) 36.9、葉齢12.3</p> <p>・「あきまろん」(密植) 草丈: 91.2 (96.7) cm、茎数: 454 (365) 本/m<sup>2</sup>、葉色 (SPAD値) 36.0 (34.3)、葉齢14.7 (14.7)</p> <p>・「ヒノヒカリ」(密植) 草丈: 87.3 (95.1) cm、茎数: 422 (384) 本/m<sup>2</sup>、葉色 (SPAD値) 33.4 (31.1)</p> <p>・「忠の予感」(普通植) 草丈: 85.6cm、茎数: 274本/m<sup>2</sup>、葉色 (SPAD値) 33.3、葉齢14.9</p> <p>・「あきざり」(普通植) 草丈: 94.4cm、茎数: 409本/m<sup>2</sup>、葉色 (SPAD値) 37.1、葉齢13.0</p> <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 8月14日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月26日～9月25日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月28日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月コブノメイガ、斑点米カメシノ、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月9日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきざり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年度「ひめの雫」の生育状況（8月3日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月14日移植、田植え後50日時点での茎数は22.4本/株で昨年よりやや少なく、草丈、葉色（SPAD値）はいずれも平年より低い。</li> <li>・5月22日移植 7月10日調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈（cm）61.4、茎数（本/㎡）362、一株あたり茎数（本/株）23.9、葉色（SPAD値）32.8</li> </ul> </li> <li>・6月1日移植 7月21日調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈（cm）68.4、茎数（本/㎡）320、一株あたり茎数（本/株）21.1、葉色（SPAD値）32.1</li> </ul> </li> <li>・6月14日移植 8月3日調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈（cm）67.6、茎数（本/㎡）339、一株あたり茎数（本/株）22.4、葉色（SPAD値）31.4</li> </ul> </li> </ul> <p>（愛媛県農業試験場 8月7日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>四国地方は8月30日頃からかなりの高温。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。（農林水産省 8月9日付）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【7月情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂時期は平年並であったが、収穫時期は平年並～やや遅く、「南園そだち」は7月21日頃から、「よさこい美人」は28日頃から、「コシヒカリ」は8月初頃からとなりそうである。収穫量は平年並になる見込み。</li> </ul> <p>（普通期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈、茎数とも平年並で、全体的に根を固く生育しているが、葉いもちの発生が見られる場所があり、ズリ込み症状の場所もある。出穂時期の早い品種では軟弱病が発生し始めている。</li> </ul> <p>（高知県病害虫防除所 8月3日付）</p> <p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（早期栽培） やや不良。（農林水産省 7月31日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>四国地方は8月30日頃からかなりの高温。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。（農林水産省 8月9日付）</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」。普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>（8月18日現在）</p> <p>【早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月中下旬頃の「夢つくし」「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べてやや早く、収穫作業は8月16日頃から本格化した。</li> <li>・台風による倒伏は少なく、収量は平年並と見込まれるものの、登熟期が高湿で経過したため、白米熟粒の発生が多い見込み。</li> <li>・イネカメムシによる軟弱病の発生も一部で見られ、収量及び品質の低下が懸念される。</li> </ul> <p>【普通水稲（夢つくし、元氣つくし、ヒノヒカリなど）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期は、8月10日頃「夢つくし」が9月8日、8月中旬頃「元氣つくし」が9月19日頃で、平年並の見込み。</li> <li>・トイロウカや葉いもちの発生は平年より少ないものの、イネカメムシの発生が一部地域でやや多い。</li> <li>・「夢つくし」の成熟期は、平年並かやや早いと予想され、収穫は9月中旬が最盛期となる見込み。</li> </ul> <p>（福岡県農業総合試験場 8月21日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>九州北部地方は8月29日頃からかなりの高温。（福岡管区気象台）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元氣つくし」を中心とする品種構成であるが、「元氣つくし」が増加傾向となっている。種では「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本	<p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（早期栽培） 平年並。（農林水産省 7月31日付）</li> </ul> <p>（生育）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通水稲は分けつ期。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>九州北部地方は8月29日頃からかなりの高温。（福岡管区気象台）</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「新のくまると」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまるとの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（早期栽培） 平年並。（農林水産省 7月31日付）</li> </ul> <p>（生育）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通水稲は分けつ期。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>九州南部地方は8月30日頃からかなりの高温。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みどり388」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】（見込み）（7月15日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（早期栽培） やや不良。（農林水産省 7月31日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月26日～9月25日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>九州南部地方は8月30日頃からかなりの高温。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「みどり388」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：種及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を掲載情報欄で取り纏め。  
注2：生育状況等（出先機関等公表資料の抜粋）については令和5年8月24日 14時30分時点での取り纏め。  
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道農政部 8月21日)、  
農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月21日)、  
農作物生育状況 8月15日現在(北海道石狩総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月21日)、  
農作物生育状況調査の概要 8月15日現在(北海道留萌総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月21日)、  
臨時農業生産情報(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 8月17日)、  
令和5年度水稲生育定期調査結果(登熟状況)臨時情報(岩手県農業研究センター 8月23日)、  
令和5年度水稲の出穂状況について(8月9日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 8月10日)、  
栗原の稲作通信令和5年第8号(宮城県栗原農業改良普及センター 8月22日)、  
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月24日閲覧)、  
稲作だより緊急号高温対策(3)(最上総合支庁農業技術普及課 8月23日)、  
米づくり技術情報No.15(山形県 8月22日)、  
主要な農作物の生育情報令和5年度第5号(福島県農林水産部農業振興課 8月9日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所作物研究室 8月3日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所水田利用研究室 8月7日)、  
水稲生育診断速報No.6(栃木県農政部経営技術課 8月10日)、  
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、  
水稲の生育と今後の管理対策(高温対策臨時号 第3号)(新潟県農林水産部 8月21日)、  
「コシヒカリ」等の適期刈取りについて(富山県米作改良対策本部 8月21日)、  
台風7号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月10日)、  
稲作情報No.16(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月22日)、  
令和5年度水稲生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月22日)、  
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.4(8月情報)(兵庫県農林水産部 8月4日)、  
水稲(中生・晩生品種)の高温障害回避の技術対策について(岡山県農林水産総合センター、岡山県農業気象技術担当者会議 8月22日)、  
水稲生育状況(令和5年8月10日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 8月14日)、  
2023年産「ひめの凛」の生育状況(8月3日現在)(愛媛県農林水産研究所 8月7日)、  
病害虫発生予察情報について 令和5年度病害虫発生予察6月月報(高知県病害虫防除所 7月4日)、  
福岡県の主な農作物の生産状況(令和5年8月18日現在)(福岡県農林業総合試験場 8月21日)、  
令和5年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月26日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(8月24日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(8月24日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(8月24日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(8月24日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(8月24日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(8月24日広島地方气象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(8月24日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(8月24日福岡管区气象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(8月24日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(8月22日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(8月22日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(8月22日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(8月22日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(8月22日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(8月25日広島地方气象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(8月22日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(8月22日福岡管区气象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(8月22日鹿児島地方气象台)、

早期天候情報(8月21日14時30分 気象庁)、  
エルニーニョ監視速報(No.371)について(気象庁 8月10日)、

令和5年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月31日)  
令和5年度病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月9日)、  
令和5年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)